

## 令和3年度第2回苫小牧市環境基本計画推進会議会議録

日 時：令和3年10月5日（月）13:25～14:30

会 場：市役所9階議会大会議室

出席委員：10名

会 議 録：以下のとおり

（櫻井課長）

定刻前ではありますが、委員の皆さんお揃いですので、さっそく始めさせていただきたいと思います。

ただいまより、令和3年度第2回苫小牧市環境基本計画推進会議を開催いたします。本日はお忙しい中、御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

進行をさせていただきます、環境衛生部環境保全課長の櫻井と申します。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、環境基本計画推進会議開催にあたりまして、環境衛生部長の町田より御挨拶申し上げます。

（町田部長）

皆さんこんにちは。令和3年度第2回苫小牧市環境基本計画推進会議の開催にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。

まず皆さんには、推進会議の委員を引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。また、本日は御多忙の中、御出席をいただいたことに対しまして、重ねて感謝申し上げます。

さて、我が国では、昨年10月に、内閣総理大臣が2050年までにカーボンニュートラルの実現を目指すとの宣言をしたことにつきましては、皆様ご承知のことと存じます。

宣言以降は、脱炭素化に向けた動きが加速しておりまして、本市におきましても、8月24日に、「ゼロカーボンシティ宣言」をさせていただいたところでございます。今後、市としましても、二酸化炭素の実質排出量ゼロに向けた、具体的な取組を進めることとなりますので、皆様にはこれまで以上に、御理解と御協力をお願いしたいと考えているところでございます。

本日の会議は、地球温暖化を起因とする気候変動の問題に限らず、様々な環境問題の解決に向けて、「市民」「事業者」そして「市」の3者が連携して、「苫小牧市環境基本計画」を推進することを目的に開催するものでございます。

なお、この「環境基本計画」につきましては、2050年のカーボンニュートラルを目指すために、来年度大きく改訂する予定でございます。

いずれにしましても、委員の皆様には、それぞれの立場から、忌憚のない御意見をいただき、活発な議論を進めていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(櫻井課長)

ありがとうございました。

環境衛生部長につきましては、他の用務により、ここで退席させていただきます。御了承の程、よろしくお願いたします。

(町田部長)

皆様どうぞ、よろしくお願いたします。

～ 町田部長退室 ～

(櫻井課長)

今年度は、推進会議委員の改選期でございましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、第1回目の会議を書面開催としたことから、本日も出席いただきました委員の皆様方から、自己紹介のほうをお願したいと思っております。

マイク的使用方法についてでございますが、話す前に目の前のボタンを押していただきますと赤く変わりますので、その状態でお話できる状態となります。話し終わった後は、もう一度押していただいて、その赤い色を消していただくということでお願したいと思っております。

はじめに岩田会長、次に小林副会長、その後は慶伊委員からですね、左回りに順次お願したいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

それでは、岩田会長お願いたします。

～ 岩田会長挨拶 ～

～ 小林副会長挨拶 ～

～ 各委員の挨拶 ～

(櫻井課長)

ありがとうございました。続きまして、事務局の紹介をいたします。

～ 事務局挨拶 ～

(櫻井課長)

なお、本日は川上委員、小越委員、芹澤委員、下江後委員より、欠席との連絡をいただいております。

会議開催にあたり、本推進会議の会議録につきましては、「苫小牧市市民参加条例」第11条により公開することとなっております。ホームページ等で公開してまいりますので、あらかじめ御了承のほど、よろしくお願いたします。

それではこれからにつきましては、会長が議長として会議を進めていただきたいと思います。岩田会長よろしくお願いたします。

(岩田会長)

それでは、次第によりまして、会議を進めてまいります。事務局より各議題の説明のあと、質疑応答という形で行います。質疑等がある方は挙手をお願いいたします。

本日の会議は、遅くとも15時00分までを予定しておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、次第4の報告等につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(干谷副主幹)

はじめに、委員の交代について、御報告させていただきます。

北海道電力ネットワーク株式会社苫小牧支店の足立様が人事異動のため、6月30日をもって退任され、後任として新たにご推薦いただきました 渡辺 公平様が7月1日から本推進会議の委員に就任されました。

次に、委員の辞退についてでございます。

公募によりご参加いただいております、河村 義正様が一身上の都合により、8月17日をもって御辞退されております。このことによる欠員に対しましては、新たな公募は行わず、現委員にて活動を行ってまいりたいと考えております。事務局からは以上です。

(岩田会長)

ありがとうございました。次に5. 議題(1)「苫小牧市第3次環境基本計画(令和2年度)進捗状況」につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(中山主査)

それでは私の方から、議題(1)の苫小牧市第3次環境基本計画の令和2年度の進捗状況について、御報告させていただきます。着席にて説明させていただきます。

環境基本計画の進捗状況については、具体的な取組に対する評価と目標達成の指標の令和2年度評価で報告させていただきます。

資料1-1をお願いいたします。この環境基本計画では、計画を推進するため、分野ごとに基本目標、基本施策、市民、事業者、市の各主体別に具体的な取組を設定しております。そのうち市の行動は62項目あり、市各担当課が市の行動に基づいた取組を行っております。この資料は市の具体的な取組62項目について、担当課による実施内容と効果及び令和2年度の取組に対する評価を記載したものととなります。

評価につきましては、目標に到達し、適切に実施されている場合は「◎」。ほぼ目標に達している、概ね良好に実施されている場合は「○」。目標に達していない場合は「△」。未実施、廃止、達成困難と判断された場合は「-」により行いまして、結果がですね、61項目が目標に達成しており、残りの1項目は、資料1-1のNO1の行動指針「企業の新規立地の際には、必要に応じて事前協議を行い、公害の未然防止に努めます。」という項目で、これに対しては該当する案件がなかったため、未実施という結果でございました。

続きまして、資料1-2をお願いいたします。この指標は計画がどの程度達成されたのかを把握する方

法として、分野ごとに設定しており、数値による定量目標、苫小牧市総合計画策定に向けた市民意識調査の満足度としております。総合計画策定に向けた市民意識調査は、次期総合計画の改定年度となる2022年度に実施することになりますので、市民満足度に対する評価は、今現在は行うことができませんので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

時間の関係上、具体的な行動に対する実施内容及び効果、目標達成の指標に対する令和2年度結果については、記載のとおりとなっておりますので御一読いただきたいという風に思っております。

以上、簡単ではございますが、議題（1）の苫小牧市第3次環境基本計画の進捗状況について説明を終わらせていただきます。

（岩田会長）

ありがとうございました。ただいまの説明に対しまして、御質問等はありませんか。御質問等がある場合は挙手をお願いします。

（A委員）

資料1-1上段の方に、各評価が担当からの回答となっているということから推察すると、評価自体は各担当の自己評価という形でよろしいでしょうか。

（中山主査）

はい。こちらの資料の具体的な取組に対しては、定量目標というより、その担当課の評価ということになります。

（A委員）

担当しているところが自己評価で、他の部分から評価されるというわけではなくて、あくまでも自己採点という形ですね。

（中山主査）

そうですね。

（A委員）

分かりました。

（岩田会長）

他に御質問ありませんか。

それでは無いようですので、続きまして5. 議題（2）「令和3年度実施事業（活動報告及び今後の予定）」につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(笠山主事)

それでは、私から議題(2)令和3年度事業(活動報告及び今後の予定)について、説明申し上げます。着座にて説明させていただきます。

はじめに、令和3年度事業の活動報告について申し上げます。お手元の資料2-1をご覧ください。

「せせらぎスクール」の実施結果について報告いたします。

本事業は、アルテン内の覚生川にて、7月27日(火)に実施いたしました。

参加人数は、子ども28名、保護者23名で合計51名でした。事業内容につきましては、今年度から新たに、自転車による人力発電体験を取り入れ、自然環境だけではなく、再生可能エネルギーについてもより一層考えてもらえるようなプログラムといたしました。3グループに分かれていただき、【生物調査】【風力発電】【自転車発電】【水辺調査】全4つのコーナーを、順番に入れ替わりで体験をしてもらいました。当日は風があまり吹いていなかったこともあり、走り回って風を受けたり、扇風機に発電用キットを近づけたりして子ども達で発電の確認をいたしました。川で採取した生物は、分類用の下敷きや職員のアドバイスを参考に、子ども達に分類をしていただきました。実際には、ヒラタカゲロウ類やヨコエビ類といった、きれいな水に生息する生物が確認することができ、簡易キットを用いた水質検査においても、覚生川はきれいであるという結果を得ることができました。自転車による人力発電では、電気を少し作るだけでもすごい力が必要で、大変で難しいものなのだという気付きを得られる、貴重な体験活動とすることができました。

アンケートにつきましては好評をいただいております。お手元の資料2-2へまとめております。2-2の説明については割愛させていただきます。以上が「せせらぎスクール」の報告となります。

続きまして、「突撃!とまエコ企業」の実施結果について報告いたします。お手元の資料2-3をご覧ください。

本事業につきましては、日本CCS調査(株)苫小牧CCS実証試験センター様のご協力をいただき、令和3年8月30日(月)に同社内の施設の取材・撮影を、環境保全課職員2名で実施いたしました。

事業内容につきましては、日本CCS調査(株)様が行うエコな事業について取材・撮影を行い、作成した動画を苫小牧市公式YouTubeチャンネルに公開し、環境保全課のHP、LINE、Facebook、Instagram等、各インターネット上の媒体にて併せて周知し、広く環境啓発を行うことを目的としております。

本動画につきましては、現在、編集作業を行っておりますので、YouTubeに動画をアップしましたら、委員の皆様へ改めてご連絡させていただきます。

なお、本事業につきましては昨年度初めて実施を行いまして、今年で2年目となりました。お手元の資料2-4にも掲載をしておりますが、昨年度は本推進会議委員である高橋様のご協力をいただきまして、(株)ワクラ様、苫小牧バイオマス発電(株)様のエコな事業をインターネット上に公開しております。皆様是非ご覧ください。

以上が「突撃!とまエコ企業」の報告となります。

続きまして、「ウトナイ湖漁業体験」の実施結果について報告いたします。資料2-5をご覧ください。

本事業は、9月4日(土)に実施予定でしたが、北海道が「まん延防止等重点措置」の対象区域となり、事業を主催する環境生活課において、関係各所と協議の結果、新型コロナウイルス感染症拡大状況の悪化が見込まれたため、事業を中止といたしました。本年はウトナイ湖のラムサール条約制定30周年記念ということもあり、他事業とのスケジュールの関係から、延期開催についても出来なかった

ものと伺ってございます。

以上が、本日までにおける事業の実施状況でございます。

続きまして、今後の実施予定事業についても、併せてご説明申し上げます。

はじめに、親子森林整備体験（秘密基地をつくろう！）について報告いたします。資料2-6をご覧ください。

本事業は、11月13日（土）に開催予定でございましたが、講師や会場運営等を依頼しております、NPO法人いぶり自然学校様より、現時点で自社が予定していた事業全てを中止することが決まった旨の連絡を受けまして、協議の結果、新型コロナウイルス感染症拡大の懸念があったことも踏まえまして、事業自体を中止とすることが決定いたしました。こちらの事業につきましては、委員の皆様へは事前に通知をしておらず恐縮ですが、この場を借りて報告を申し上げます。

以上が「親子森林整備体験」の報告となります。

続きまして、「親子でエコ・クッキング教室」についてです。資料2-7をご覧ください。

北海道地球温暖化防止活動推進委員会様から講師をお招きし、地球温暖化防止についてのミニ講座実施後、環境への負荷を減らす省エネ調理法をお子さんと一緒に学び、実践することで、地球温暖化防止に対する意識向上を図ることを目的としております。

昨年度は、新型コロナウイルスの影響で講師の派遣が困難なことから中止といたしましたが、今年度は、昨年度同様、市民活動センター調理室において小学生を含む親子20名を募集対象に、令和4年2月中旬頃を実施予定としてございます。

以上、簡単ではございますが、令和3年度事業の説明を終わらせていただきます。

なお、今年度中止となった事業に代わり、代替の事業を開催する予定でございます。現在事務局にて検討しておりますが、事業内容が決まり次第、委員の皆様へ改めて連絡いたしますので、よろしく願いいたします。

以上で報告を終わります。

（岩田会長）

ありがとうございました。ただいまの説明に対しまして、御質問があればお受けしたいと思います。御質問がある方は挙手をお願いいたします。

御質問ないですか。なければ、少し時間も余裕が出てきましたので、せせらぎスクールに参加した方から感想などを伺えたら有難いなという風に思いますので、よろしく願いいたします。

真正面にいます、B委員いかがでしょうか。

（B委員）

感想としましては、小学生が多かったと思うのですが、皆さん楽しんでいらっしゃっていて、怪我もなく、そして感想としましては、アンケートのとおり皆さん勉強になったとおっしゃっていただいていたので、活動としましては、非常に良かったのではないかという風に思っております。

（岩田会長）

ありがとうございました。C委員いかがでしょうか。

(C委員)

あそこの場所は、私もよく大沼でワカサギを釣りに行ったり、それから山菜取りなんかでもよく行っているんですけど、川の上流には砂防ダムのものが出来てましてね、ああいうところで魚とかそういう生物とか少し少なくなっているのかな。昔はザリガニとかそういうものが川の中にいたはずだなと思いつつながら過ごしておりましたけれども。

まあ、子ども達は大自然の中でね、生き生きと走り回っておりましたね。大変嬉しかったんじゃないかなと思いました。

(岩田会長)

ありがとうございました。D委員いかがでしょうか。

(D委員)

毎年、私が関わっていて一回くらい中止になったことあるのですが、幸いなことにせせらぎスクールは、ずっとやり続けてきた行事で、私も一番子ども達の生き生きしている姿を見るのが楽しくて、休まず参加しています。

今回は、一番私の中で、子ども達にストンっと落ちたというか、私が一番感動したのは、自転車で風車を回すのにもものすごいエネルギーがいるっていうことを子ども達一人ずつ、自転車だから足届かない子は乗れなかったのだけど、電気がいかに作るのが大変かという体験を、身をもって体験した。あれは私、今回はヒットというか、計画の中では今までにないね、自分の体で電気を作ることに挑戦できたってことは、凄く良かったと思っています。見ている私は自転車に乗れないですけど、ほんともう小っちゃい子達はね、自転車に乗れないから足が届かないでしょうね。だから、小っちゃい子も乗れるようにね、来年やってほしいのだけど、小さい子も参加して乗れるというか、ちょっと工夫すると、「いいなー、おっきいお兄ちゃんしか乗れないから…」じゃなくて、「ぼくも、わたしもできる！ やれた！ 挑戦できた！」という体験をね、子ども達にさせたいなと思っています。それが私、今年のせせらぎスクールのヒットだと思っています。参加出来て良かったです。ありがとうございます。

(岩田会長)

はい、ありがとうございました。

私も当日参加をしまして、ただいまのD委員がおっしゃったようにですね、電気を起こすのは大変だなということを実感しました。100Wか200Wですか、倍上げるのにひどい苦勞をですね、私は無理でした。ですから、その電気をやっぱり、いかに大切に使わなきゃダメだなというのを子ども達も実感していただいたなと思っています。

それから、覚生川が今、報告にもありましたけど、凄くきれいな川なのですね。それで、やっぱりきれいな川をこれからも、苫小牧に住む子ども達にも、覚生川がきれいだよということを知ってほしいし、また汚さないようにしてほしいなど、そして来年またせせらぎスクールやと思うのですが、多くの子ども達がね、また参加してくれればいいなど、そんな思いで感想は以上です。

(D委員)

良かったですね

(岩田会長)

良かったですね。

それでは皆さんからこの感想をいただきましたので、突然指名して、申し訳なかったです。ありがとうございました。今回参加できなかった委員さんも来年は是非、参加してはいかがかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、これ以上無いようですから、続きまして、5.議題(3)「令和4年度実施事業(企画案)」につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(小越主査)

それでは、議題(3)令和4年度事業企画案について、わたくし小越の方からご説明させていただきます。

お手元、右側に資料3と書いてあるA3の横の紙をご用意ください。着座にて失礼いたします。

今回、皆さんからたくさんの御提案をいただき誠にありがとうございました。

今回、新規の案件が3件、既存の事業に対して2件ご提出いただき、あとで事務局側からも追加で1件御提案させていただこうかなと思っておりますので、合計6件について御報告させていただきます。

まず、番号1番、B委員から御提案頂きました「植林・育樹体験」についてです。参加者の小・中学生が植樹体験と落ち葉の堆肥づくりを通して、森の大切さや環境の輪廻について学び、環境保全を推進するというものです。落ち葉が多い秋に、森林がある公園等で実施する内容となっています。

続いて2番目、E委員の御提案です。「再生紙づくり」についてです。参加者の身近にある主に牛乳パック、段ボール、使用済みの用紙等の廃棄される予定の紙を利用して、新しく紙を生成することで、身近な資源の利活用とその発見、理解の促進を行う内容となっています。

続いて3番目、F委員の御提案です。「エコ・リサイクル企業見学会」についてです。参加者がエレクトロニクス機器のリサイクルを行う企業を見学し、廃OA機器、リチウムイオン電池、貴金属等のリサイクル工程や再生可能エネルギーについて学びます。エコに対する環境意識の醸成を図り、環境に配慮した商品の購入につなげるという内容になっています。

次の4番と5番に関してはですね、既存の事業になるのですがけれども、本日ご欠席のG委員と、あとH委員から御提案いただいております。例年実施されている事業となりますので、説明のほう省略させていただきますけれども、一方で私自信も、せせらぎスクールに今回初めて参加させていただいて、皆様から意見もあった通り、もっと多くの方に参加していただきたいですとか、委員からお話があった小学生の低学年の方でも発電出来るようなそういう仕組み等々、これから事務局側で検討していかなきゃいけないことは多々あると思っておりますので、引き続き既存事業ですけれども、より良くするために、事務局側でも検討はしていきたいなという風に考えております

最後に番号6になります。一番下になります。事務局からの提案になります。「身近な脱炭素見学会」という仮の題名をつけておりますけれども、今まで、企業の取り組みとして「エコ企業見学会」ですとか、「突撃!とまエコ企業」昨年度から始めさせてもらいましたけれども、等は紹介させていただいており



ます。一方で、個人の取り組みとしては、身の回りで実際に取り組めるエコな取り組みなどは Instagram 等で配信しているものの、省エネ型のご自宅ですとか、脱炭素型の自動車ですとか、「聞いたことはあるのですがそれ何ですか」みたいなものがポツポツ出始めていて、市内でもそれを見たり実際に体験したりすることができるような場所が出来てきております。

例えば、「ZEH」と書いてこれゼッチと読むのですけれど、「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス」の事として、家の中で生産するエネルギー量と、消費するエネルギー量の収支がトータルで0になるような家のことをゼッチと言います。建設時のコストがちょっと高くなってしまいますのですけれども、電気代とか光熱費が安くなることから、トータルコストでは最終的には安くなります。且つ二酸化炭素の排出量も減らせるといったような効果がありますので、ゼッチは脱炭素社会の構築に向けては非常に大事な技術になるのじゃないかなという風に考えております。

また、下の方に「V2H」と書いて「ビークル・ツー・ホーム」と読むのですけれども、日本語役するとですね、「クルマから家へ」という意味になります。主にEV、電気自動車ですとか、PHV、プラグ・イン・ハイブリッド車に貯めている電気を、住宅でも使えるような仕組みのことになります。仕組みによっては太陽光パネルと連携して、家から車に充電することも可能です。

このように新しい技術、脱炭素技術を、市内の住宅メーカーですとか、車のメーカーさんとかと協力して、実際にモデルハウスですとか販売店とかを見学して、どんな技術なのかということを知りつつ、新しい技術を買うのに実際にどれくらいお金がかかるんですかとか、補助金の制度はどんなものがあるのですか、というのを学んでみてはいかがでしょうかというような提案になっております。

以上、簡単ではございますが、令和4年度にむけた事業の企画案の説明となります。

(岩田会長)

ありがとうございました。ただいま事務局から全体の概要につきまして説明がありましたが、改めて御提案のありました事業につきまして、補足説明をしていただきたいと思います。

はじめに、B委員よりお願いいたします。

(B委員)

植林・育樹体験について、こちらの方提案させていただきました。

各団体でしたりとか、その他のところで、植樹体験というのは各場所でやっていると思うのですけれども、こちらの企画の中で、植樹体験というものが無かったので、私から提案させていただいた次第です。過去にあったかどうかは分からないのですけれども、提案させていただきました。時期として、10月・11月に提案させていただいたのも、落ち葉が落ちている時期ですので、こちらの方で、実施内容にも書いているとおり、たい肥作りも含め、植樹体験を混ぜることによって、環境の輪廻というのを深く学んでいただきたいと思いますという風な御提案でさせていただいた次第です。

(岩田会長)

ありがとうございました。次にE委員よりお願いいたします。

(E 委員)

再生紙づくりということで御提案させていただいたのですけれども、期間としては夏休み期間というところで、たくさんの方に参加していただけるように、時期について決めさせていただいております。実施内容といたしましては、記載のある通りですけれども、身の回りの再生紙のトイレットペーパーだったり、あとティッシュペーパーですとかたくさんあると思うのですが、実際にこれがどんな風に作られているというのが、正直なところ私自身、小学生の頃というのは分からなかったなという風に思いまして、そして、紙の町である苫小牧というところも受けて、デジタル化も進んで紙に触れ合う機会も少なくなってきたとは思っているのですけれども、今一度、再生紙がどんな風に作られていて、身近でもこんなものが再生紙として使えるのだというのを知っていただける機会になればなというところで、記載させていただきました。以上です。

(岩田会長)

ありがとうございました。最後にF委員よりお願いいたします。

(F 委員)

まずあの企画案の依頼がありまして、私勘違いしてしまして、委員様が全員1つ以上提出するのかなという風に勘違いしまして、確か締め切りの最終日ですね、お店の方からFAXした次第でして、大変申し訳ございません。

イオンではですね、ごみの処理、特に産業廃棄物ですね、ほぼ10社前後のお取引先様の方に産業廃棄物中間処理、あるいは最終処理という形を実施しています。

お店の方では「ISO14001」、特に環境に関わるようISOですね。こういったものを取り組んでおりまして、そのISOの中に、自社が産業廃棄物を処理されている処理業者の方に、必ず視察をするというのがそのISOの中の取組の中に一つあるんですね。手分けして各店の方で、1店舗2社から4社くらい回るのですけれども、私も苫小牧で、産業廃棄物の処理業者を見せていただきまして、非常に驚きがありました。驚きというのは、やはりこういったようなごみが、リサイクルでこのような物に変わるっていう驚きですね。それで最近驚いたのが、JX金属苫小牧ケミカル株式会社というところでございました。コロナ禍でございますので、バスで行って、現地で説明聞いて、またバスで帰ってくると一番リスクも少ないかなと思ひまして、ちょっと勝手ですけども、私の方の案として挙げさせていただきました。以上です。

(岩田会長)

ありがとうございました。委員の皆様から追加の補足説明をいただきましたけれども、それを踏まえまして、事務局から意見をお願いいたします。

(小越主査)

委員の皆さん、詳細なご説明ありがとうございました。

事務局から事業実施に向けた考え方なのですが、総論として1から6は、全て実施は可能なのではないかなという風に考えています。ただ詳細をもろもろ詰めなきゃいけないところとか協議しなきゃ

やいけないところとかありますので、その点ちょっとご説明させていただきたいと思います。

まず1番のB委員から御提案の「植林・育樹体験」ですけれども、委員のお話からもありましたし、C委員の団体さんでもそうですし、イオンさんでもそうですし、植林とか育樹の活動は色々な団体さんでやってらっしゃいます。当市でも「市民植樹祭」みたいなものを行っているので、いろんなところで育樹のイベントって行われています。今あるイベントなり、育樹のイベントと一緒にコラボレーションなり、共同実施するようなやり方もありますし、育樹だけで単独でやるようなやり方もあるので、やり方についてまず一回考えなきゃなという風に考えているところでした。

一方、たい肥づくりについては、熟成期間がどうしても必要になってくるので、この熟成期間を誰がどうやって管理しなきゃいけないのかというところが、1個ハードルとしてありそうだなという風には考えているところなのです。一方で、木の成長にはたい肥があった方が良いのは間違いないので、この育樹のイベントと事業と併せて、たい肥をどうやって作ったら良いのか、また落ち葉だとやっぱり秋に作るものなので、置いておいたら春になるとか、熟成期間の方と踏まえて、どのようなやり方があるのかちょっと模索させていただきたいなという風に考えております。

次に、2番のE委員から御提案の「再生紙づくり」なのですけれども、実はJFEリサイクルプラザで、沼ノ端のクリーンセンターにあるのですけれども、そこで、牛乳パックからはがきを作るという再生紙づくりを今も行っていて、御提案いただいた夏休みという期間ですと「夏休みリサイクル教室」というのを行っているので、既に事業としてゼロごみ推進課というところの事業でやっているものでもあります。ですので、実施についてはゼロごみ推進課の方ともよく相談の上、我々の事業としてやるのか、一緒にやるのか、ゼロごみ推進課の方から講師を招いてやるのかとか、いろんなやり方があると思いますので、それもまた課内で検討させていただきたいなという風に思っております。

3番のF委員から御提案の「エコ・リサイクル企業見学会」なのですけれども、今までのエコ企業見学会の発想にはなかった企業の御提案をいただいたんじゃないかなと思っていて、我々も、企業さんが産廃として出す先をエコ企業見学会の対象としてはあまり考えていなかったのので、御提案いただいて、これは我々も前向きに考えなきゃいけないなということと共に、もっと企業研究みたいなのをしていかなきゃいけないなという風に考えているところでした。もちろんエコ企業見学会の中で、御提案いただいてJX金属苫小牧ケミカルさんを視察先とすることもできますし、新たに「エコ・リサイクル企業見学会」みたいなのを立ち上げるというやり方もあると思いますので、やり方については事務局の方で検討させていただければなという風に思っております。

番号4、5については、既存事業ですので、先ほども触れさせていただいたとおり、実施内容ですとか、もっと多くの方に参加していただけるためには、どうしたら良いかというところは、事務局で引き続き検討させていただきたいと思っております。

番号6の事務局案については、ここは皆さんから是非、御意見を頂戴できたらなという風に考えております。

最後に、6つの案が今回あるのですけれども、その他にも、新しくこんなことも思いついたとか、ゼロカーボンシティの宣言を苫小牧市もいたしましたので、脱炭素みたいな形でなにかこんな事業やったらいいんじゃないかとか、そういう御提案をこの場で承れたらなという風に考えておりますので、このあと皆さんの御意見、是非とも賜りたく存じます。私からは以上となります。

(岩田会長)

ありがとうございました。

それでは、ただいまの事務局の意見、御提案いただいた委員の皆さんの説明を踏まえまして、企画案に対しまして、御意見・御質問等があれば受けたいと思います。

御質問等がある方は挙手をお願いいたします。

誰か、御質問はございませんか。

そしたら、御質問無しとしてよろしいでしょうか。

(委員数名より)

大丈夫です。

(岩田会長)

それでは、皆様、各委員の活発ご議論ありがとうございました。

実施事業につきましては、ただいまのご説明のとおり、予算の問題やスケジュールの兼ね合いもございますので、事務局一任ということにしたいのですが、委員の皆様いかがでしょうか。

(委員一同)

異議なし

(岩田会長)

異議なしを認めます。

事務局もよろしいですか。

(小越主査)

はい。

(岩田会長)

それでは、よろしく願いいたします。

続きまして、次第6の「その他」ですが、委員の皆様から何かございませんか？

(A委員)

～ 森林資源の利活用等について、自社や自社グループの活動を交えながら説明 ～

(岩田会長)

貴重なお話ありがとうございました。

事務局からは何かありませんか。

(小越委員)

はい、私から一言だけ。お伝えし忘れてしまったんですけども、令和4年度の事業については、今年度もう1回、第3回目の会議を開きますので、その会の中で、来年度どのような事業をやりますよというのをまた改めてお伝えしたいという風に思っていますので、よろしく願いいたします。

私からは以上です。

(岩田会長)

ありがとうございます。

他になければですね、最後に次回の推進会議の開催ですけども、日程等は事務局から後日連絡を行うということでよろしいでしょうか。委員の皆さんよろしいでしょうか。

(委員一同)

異議なし

(岩田会長)

では、そのように決定をさせていただきます。

それでは以上を持ちまして、第2回環境基本計画推進会議を終了いたします。

本会議での御意見や御質問が、今後の苫小牧市の環境保全の取組に繋がっていくものと考えております。皆様の御協力によりまして、実りの多い会議になりました。

皆様、長時間にわたりまして、ありがとうございました。